

世界が尊敬する日本人・日本も核武装？

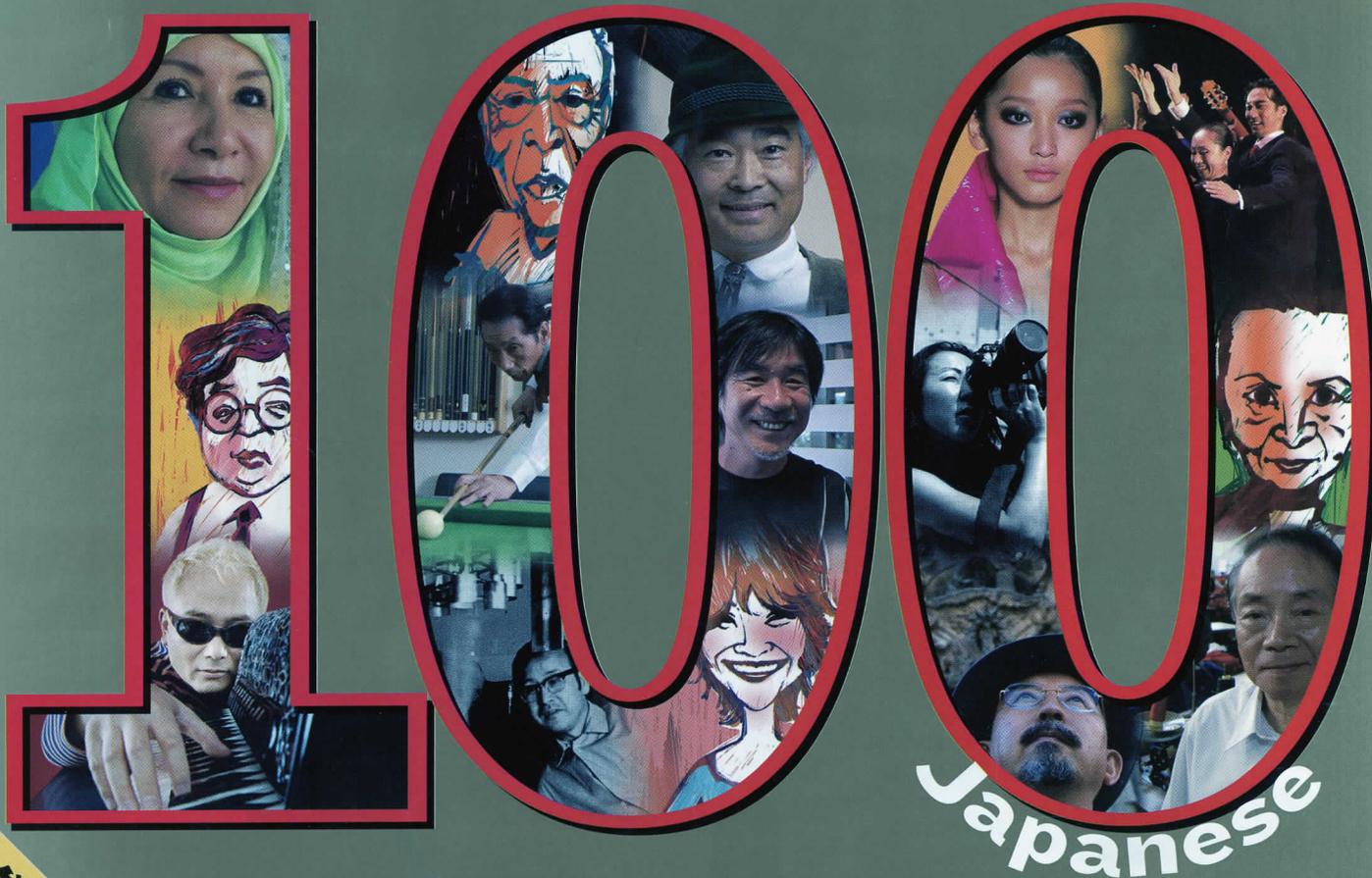


ニュースウィーク 日本版

特別定価 420円

# Newsweek

## 世界が 尊敬する日本人



技と勇気であっと言わせた  
知られざるヒーローたち

2006

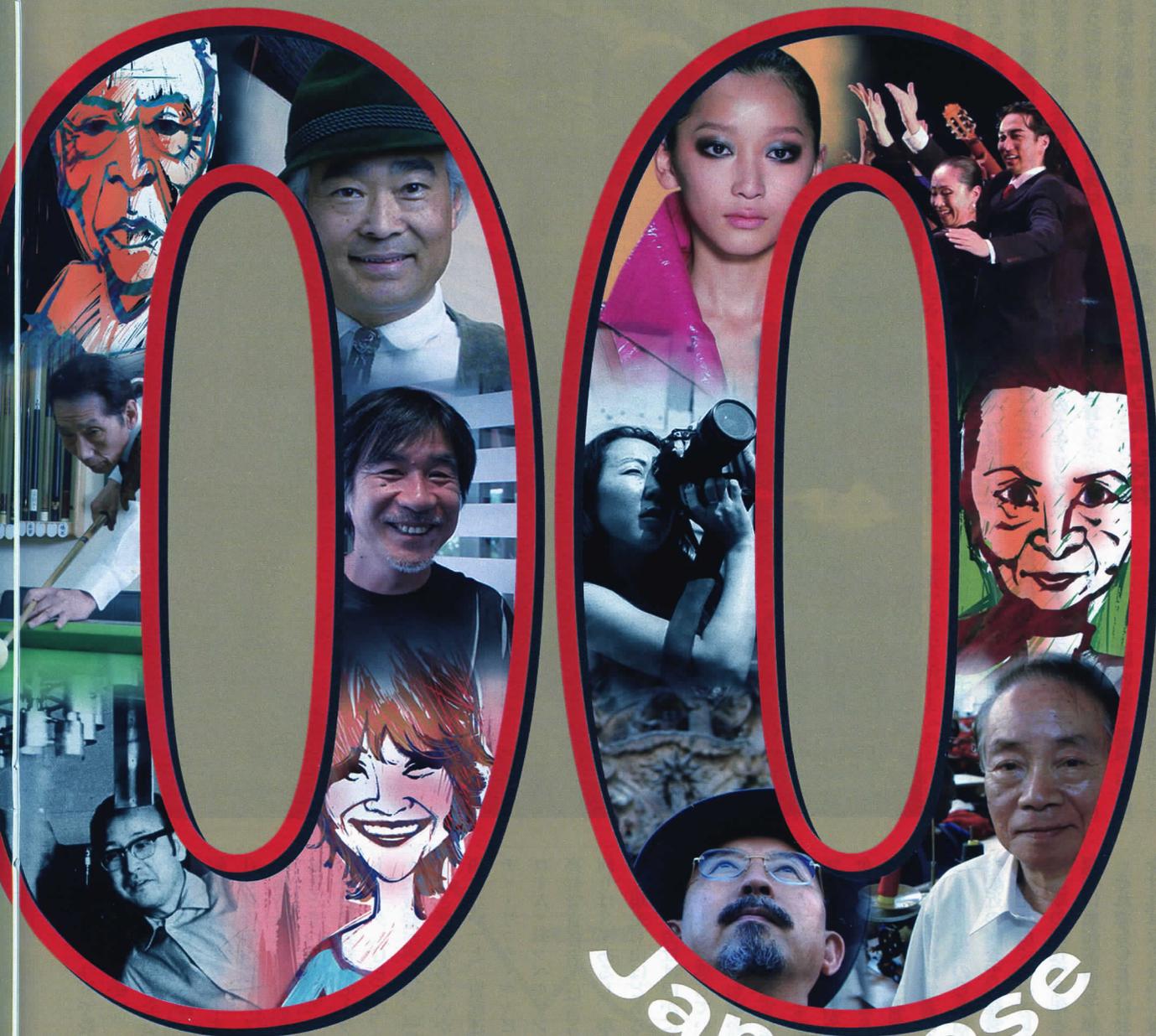
10・18

ダウ史上最高値  
空っぽの株価

昭和六十一年三月四日第三種郵便物認可

# る日本人

文化の壁を越えて喝采を浴びる、知られざる100人



Japanese

# 世界が尊敬す

プロフィール オマーンで、ウガンダで、ヘレスで、ソウルで、

## 日

本が鎖国状態にあった1841年。土佐の国からカツオ漁に出て遭難し、太平洋の無人島でアメリカの捕鯨船に救われた15歳の少年は、寄港したハワイで仲間と別れ、そのまま世界への航海の旅に出た。少年が何を思ってそんな決断をしたのかはわからない。だがこのとき未知の海原へ飛び出さなかつたら、彼が「ジョン万次郎」と呼ばれるようになって西洋の学問を身につけ、坂本竜馬に世界への目

を開かせたり、咸臨丸でアメリカへ渡る勝海舟や福沢諭吉の案内役を務めることもなかった。それから150年。今や国境を越えて活躍し評価されている日本人は、大リーグの野球選手や国際コンクールで表彰されるバイオリニストだけではない。舞台はそれより地味かもしれないが、環境保護や技術開発、外交やビジネス、アートの世界で輝かしい業績を収めている人は大勢いる。彼らに共通するのは、好奇心や冒険心、その道を究めようとする

向上心に満ち、努力と才能が海外の人々に認められている点だ。航海の途中で操船技術や測量技術を学んで尊敬を集めるようになり、彼を信頼するアメリカ人船員たちの投票によって捕鯨船の副船長に選ばれた万次郎のように。言葉の通じない世界にたった一人で飛び込んだ万次郎の経験は、日本の近代化の礎にもなった。文化の壁を越えて活躍する人々の姿は、グローバル化が加速する新しい時代に生きる日本人にとって、モデルとなるにちがいない。



(TOP TO BOTTOM, LEFT TO RIGHT) PINAKI—ARABIANEYE FOR NEWSWEEK JAPAN, ILLUSTRATION BY KYOJI ISHIKAWA FOR NEWSWEEK JAPAN, RUBIN RECORDS GERMANY, JACKY NAEGELEN—REUTERS, MIGUEL ANGEL, ILLUSTRATION BY KYOJI ISHIKAWA FOR NEWSWEEK JAPAN, MASAYUKI NAKAJIMA FOR NEWSWEEK JAPAN, COURTESY NIKOLI, JIRAIR TCHOLAKIAN FOR TIMBERLAND, ILLUSTRATION BY KYOJI ISHIKAWA FOR NEWSWEEK JAPAN, NO CREDIT, UNIVERSITY OF CHICAGO PHOTO, ILLUSTRATION BY KYOJI ISHIKAWA FOR NEWSWEEK JAPAN, TORU MORIMOTO—PANOS FOR NEWSWEEK JAPAN, GEORGINA CRANSTON—GALBE.COM FOR NEWSWEEK JAPAN



冒険心とリーダーシップで突き進む先駆者

# RS & PIONEERS

**オマーン人が慕う名物校長**

■スワーダ・アル・ムダフアーラ (教育者)

Suad Mohammed  
Al-Mudhaffar

**ア**

ラブ諸国では女性は家庭に閉じ込められ、虐げられている——アラ

ビア半島南東端のオマーンで学校を経営するスワーダ・アル・ムダフアーラ (旧日本名・森田美保子) を見れば、そんな誤ったステレオタイプは吹き飛ばはすだ。

スワーダは90年、幼稚園児から高校生まで500人が学ぶアザン・ビン・ケイス私立学校 (ABQ) を首都マスカットに設立。不可能を可能にする行動力と情熱的な語り口で、人口260万人のオマーンでは誰もが知る名物校長だ。急速な近代化に合わせて学校制度を整えたため、暗記中心にならざるをえなかったオマーンの教育

## 赤道直下で作る有機シャツ

■ 柏田雄一 (シャツ工場経営者)

**柏**田雄一(75)は赤道直下でワイシャツを作っている。赤道直下といっても、ウガンダの首都カンパラは緑豊かな標高1200メートルの高地にあり、過ごしやすい。柏田によれば、「1年中軽井沢のようなところ」だ。良質な綿花の産地でもある。彼が経営するシャツ製造会社フェニックス・ロジスティクスの工場は、綿花の栽培から紡織、染色、シャツの縫製までの全工程をこなす。「工業化の父」と呼ばれる柏田は、今やウガンダ経済の希望の星だ。

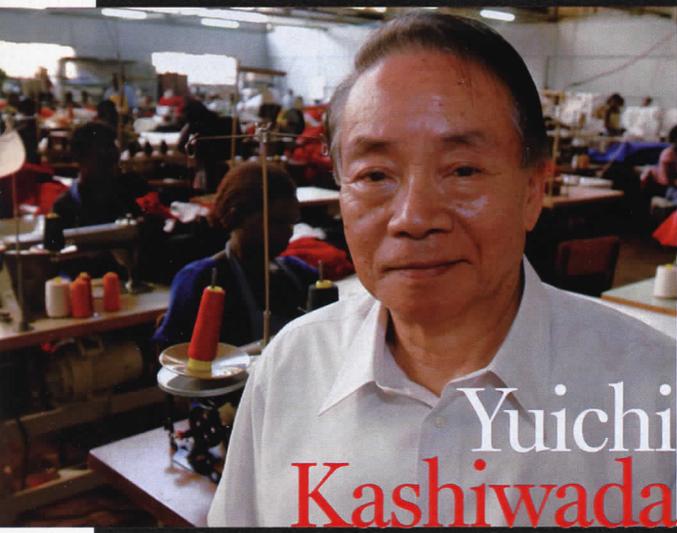
ウガンダとのかかわりは、大阪の衣料メーカーに勤めていた40年以上前にさかのぼる。きっかけは、同国のバイヤーからの注文。最初は半信半疑だったが、高級シャツが飛ぶように売れた。教会に着ていくなど、正装の需要があった。64年、合弁工場の設立責任者としてカンパラに赴任。一時、従業員は1400人までふくらみ、業績は順調だった。

その後、内戦で工場が破壊され、300万ドルの損を出したこともあったが、数年で立て直した。85年に帰国。その後も会社に勤めるかたわら、東京でウガンダ名誉領事を務めた。00年、退職を機に、業績悪化で閉鎖していた工場を共同で買い取り、社長として再びアフリカへ。

「この国はなんらかの形で工業化されるべきだ」と、柏田は語る。期待は有機綿だ。昨年、農業を使わずに栽培した有機綿花で綿糸を作りはじめた。今は、その有機綿糸で製造したワイシャツや肌着を輸出するプロジェクトに取り組んでいる。国際協力銀行の融資を受け、昨年は約260人だった従業員を今年になって100人も増やした。有機綿はアトピーなどのアレルギーで敏感な肌にもいいとされ、日本や欧米への輸出が期待できる。中国の安価な商品にも対抗できるはずだ。

有機綿製品の売り込みで世界を飛び回る柏田が日本に戻るのには年2~3回。取材時も、カバンにシャツを詰めてカンパラからニューヨークにたつ直前だった。「生涯現役。ボケないかぎり続けるよ」と笑った。

山中泉



Yuichi Kashiwada

界に、彼女は独自の方針で新風を吹き込む。たとえば、アラビア語と英語のバイリンガル教育。ABQの生徒はAレベルという国際的な大学入学資格を受験し、大半が外国の大学に進学。コンピュータや会計の国際資格にも挑戦する。教育省の学力評価では、全国でトップ3にランクイン。当初はスワダの方針を認めなかった教育省も、今ではバイリンガル教育や国際資格の取得を推奨している。

もともと、300ある私立校のなかでABQが抜群の人気を誇るの、高い学力のためだけではない。毎朝、500人の生徒全員と握手し、声をかけるスワダに子供たちは絶大な信頼を寄せる。校長室には、常に生徒が出入りして相談をもちかける。「子供の心に徹底的に寄り添うのが私の役割。わかってもらえなくても感じれば、どんな子も無限に伸びる」。実際、ABQではダウン症や自閉症の子も積極的に受け入れ、なかには大学に進むケースもある。

### 12億円の新校舎も完成

東京で生まれ育ち、カルチャーセンターを主宰していた20代のシングルマザーが、初めてオマーンを訪れたのは79年。日本文化を紹介する使節団に参加し、その後も現地の婦人会に招かれて渡航を重ねる。やがて、オマーン人男性と再婚、イスラム教に改宗し、戸籍

名もオマーン式に改めて、メイドつきの裕福な生活が始まった。だが「幸せすぎてはかになりそう」な日々を送るうち、もち前のチャレンジ精神が頭をもたげる。日本で良質の教育を受けた自分ができるのは教育だ。障害児を支援するボランティアに取り組んだ時期もあったが、善意だけでは活動は続かないと痛感し、学校づくりへの思いがますます強まった。

もちろん外国人が学校をつくるなど前代未聞。それでもギフトショップを開いて資金つくりし、小学校に入ってアラビア語を勉強しながら10年越しの夢を温めた。ようやく開校許可を得たABQも、初年度に集まったのは幼稚園児5



人のみ。それが今は、12億円の新校舎を建てるまでに成長した。数年前に4度目の結婚をしたスワダは、女性のロールモデルとしても知られる存在だ。人生相談に来る女性には、離婚女性を手厚く保護する法律について説明し、再出発を後押しする。「できることから一歩ずつ始めれば、開かない扉はない。チャレンジし続けることが、魅力的な人間でいる秘訣」。そして今も、次のチャレンジに向けて準備を進めている。不登校児が通いたくなるような学校を日本につくるという夢だ。スワダの行動力と情熱があれば、きっとユニークな学校が生まれるだろう。

井口豊子

# 園

芸の世界で最高の権威と伝統を誇るイギリスのチェルシー・フラワ―ショー。チェルシーの最優秀ガーデン賞は造園家にとって最高の榮譽とされる。福原成雄は01年にその榮譽に浴した。出品作のなかにはチャールズ皇太子の委嘱した庭もあつたが、それらを制しての堂々たる受賞だった。

もつとも福原の名を広めたのは

西の様式の奇妙な折衷や、中国式と日本式の混同が見受けられる。庭づくりの背景にある自然観が理解されないまま、デザインの一部だけが採り入れられたケースもある。「赤い鳥居と赤い橋があれば日本庭園だと思われていた。本来は、自然の景観を生かすことが大切なのに。灯籠一つにもちゃんと役割がある」と、福原は語る。

チェルシーに共同出品した「リ

設計図に託した思想をきちんと具現化できる」

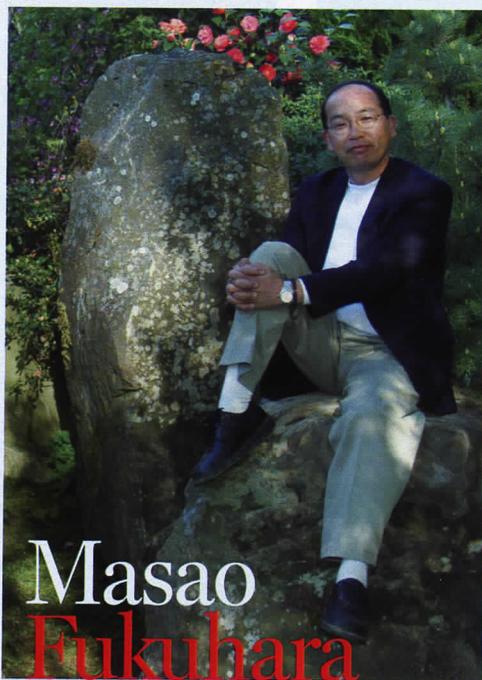
## 造園業者への技術指導も

材料の調達には苦労した。福原チームはこけむした石を求めてイギリス中を回った。植木はオランダから運ばせた。幸い今ではイギリスにも日本庭園に欠かせない地衣類を扱う園芸店がある。

ウィズリー・ガーデンやキュー

## 日本庭園の美に恋をして

■福原成雄 (庭園デザイナー)



Masao Fukuhara

ー・ガーデンの日本庭園を設計したのも福原だ。タットン・パークの日本庭園の修復も手がけた。修復にあたっては、日本の様式としては奇妙な配置もそのまま保存するよう依頼された。「迷わず引き受けた。(折衷様式も) 造園の歴史の「コマなのだから」と、福原は言う。

福原はガーデン好きのイギリス人相手に講演やワークショップを行うほか、

この賞だけではない。大阪芸術大学環境計画学科で教壇に立つかわら、ガーデンングの本場イギリスをたびたび訪れ、日本庭園の「伝道師」として活躍している。

イギリス人の日本庭園好きは今に始まったものではない。イングリランド北部のタットン・パークをはじめ、日本庭園は100年も前からあった。ただし、残念ながらこうした初期の日本庭園には、東

アル・ジャバニーズ・ガーデン」は、日本の庭づくりの三様式である枯山水、露地、池泉式を合わせたもの(福原は枯山水を担当。今は永久保存のためガーデン・オブ・ウエールズに移されている。

福原の設計を形にしたイギリスの造園業者ステイブン・スワットンは、「この仕事をしたことを名誉に思う」と話す。「彼は日本庭園の伝統を伝えるだけではない。

つ知識を学びたい人に与えられる——こんなに幸せなことはい」と福原は言う。

彼の設計した庭を散策することは、それ以上の幸せだろう。

コリン・ジョーンズ(東京)

## ゲイツを説得した預言者

■西和彦 (アスキー創業者)

ートパソコンを開くたびに、私たちは西和彦に感謝しなければならない。いや、ウィンドウズを立ち上げるたびに、と書いてもいい。

西(50)は大学を中退して創業したアスキーで華やかな成功を収めたが、後に事業に失敗して経営から退いた。しかしパソコンの誕生当時は「日本のビル・ゲイツ」と評されるほどの存在だった。

IBMのOS(基本ソフト)を手がけるよう、西がデスクをたたいてゲイツを説得したエピソードは有名だ。そうして生まれたMS-DOSは、ウィンドウズ登場までパソコンの標準

OSだった。

80年代に松下電器などが採用したMSX規格も、西らが提唱したもの。世界初の本格的モバイルマシン「TRS 80モデル100」の生みの親も西である。「ケイ(西)は日本人なのに、いちばん僕に似た人間だ」と、かつてゲイツは語っている。「預言者はその故郷にだけは敬われない」と聖書にあるように、日本では西を「過去の人」とみる向きもある。だが、彼は今でも世界を飛び回り、講演や会議で未来を語り続けている。彼が再び世界に変革をもたらす日が来るかもしれない。

デーナ・ルイス(東京)

## Kazuhiko Nishi



# 祖

国ではほとんど知られていない女性に、イギリスの女王が勲章を贈るのは稀有なこと。だが勲章を贈られた田村佳子と笹本妙子は、まさに稀有な存在だった。

神奈川県に住む2人はこの30年、第二次大戦中に日本に収容されていた戦争捕虜に関する情報を集めてきた。記録を隠し、過去の罪を忘れようとする風潮のなか、事実の究明は困難を極めた。

元捕虜たちの苦悩を癒やすため情報収集に「うむことなく献身」してきた2人に、駐日英大使館は今年5月、女王に代わって名誉大英勲章MBEを授与した。謙虚な2人は、自分たちの所属する団体「POW（戦争捕虜）研究会」全

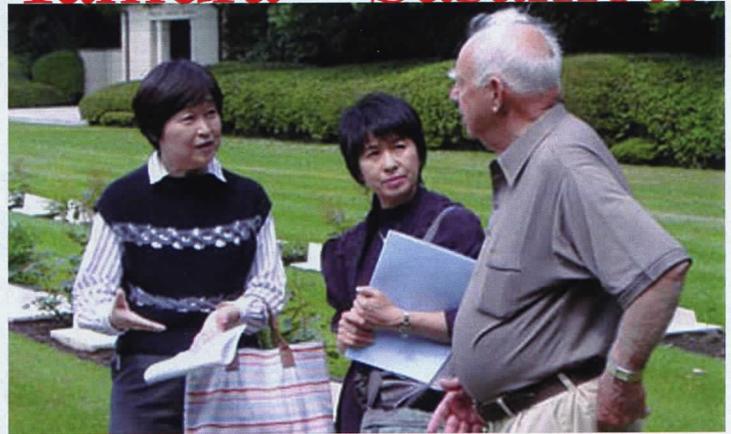
## 戦争捕虜の魂を救う

■田村佳子 (活動家)

■笹本妙子 (活動家)

Yoshiko  
Tamura

Taeko  
Sasamoto



体に対する叙勲と受け止めている。研究会ネットワークの長年の調査が実り、昨年ようやく英語のデータベースを公開できた。収容所で死亡した捕虜の記録など、貴重な情報が提供されている。

イギリスのワーウィックに住むリチャード・ブルツカーもその恩恵を受けた一人だ。ブルツカーは日本で亡くなった母方の祖父の足跡をずっと探ってきた。「公表された情報はどこにもなかった。データベースで初めて詳細がわかったときは涙が出た。幼くして父親を失った母や祖父を知らない私にとって、(彼女たちは)英雄だ」

田村がこの問題に関心をもったのは偶然だった。結婚して横浜に住むことになった彼女は、横浜・

保土ヶ谷の英連邦戦死者墓地に大勢の若い兵士が眠っていることに衝撃を受けた。地元の人たちも、なぜここに墓地があるのか知らなかった。田村は笹本らとともに、多くの日本人にこの問題を知ってもらおうと奮闘してきた。

2人は日本を訪れた元捕虜や遺族のガイド役も務めてきた。ブルツカーも母親とともに、2人の案内で祖父がいた収容所の跡地と保土ヶ谷の墓地を訪ねた。

「私たちのささやかな努力で、人々の心の傷が少しでも和らぐならありがたい」と、田村は言う。彼女たちの努力は決してささやかではない。イギリス女王もその成果を認めている。

コリン・ジョイス



Shigeru Omi

## 世界を守るスーパードクター

■尾身茂 (WHO西太平洋事務局長)

毎年1つは新しいタイプの感染症が登場することを覚悟しなければならない——こう警告したのは尾身茂(57)。グローバル化した世界における公衆衛生上の危機を最もよく知る人物だ。

尾身は16年近くWHO(世界保健機関)で働き、99年からは西太平洋事務局長を務めている。近年の2大新興感染症、すなわちSARS(重症急性呼吸器症候群)とH5N1型鳥インフルエンザの封じ込めに尽力してきた人物でもある。

輝かしい実績を背景に、尾身は11月に行われるWHO事務局長選挙に出馬を表明、「最有力候補」とみなされている。医師としての知識だけでなく、各国政府と渡り合う外交手腕でも高く評価されている。情報提供を渋る政府に対しては、毅然とした姿勢で臨む。SARS発生時には北京に飛び、中国の保健当局者と紳士的に、しかし率直に話し合った。今では面談した多くの中国当局者たちと良好な信頼関係を結んでいる。

こうした経歴が選挙戦の支えとなるだろう。なにしろ西太平洋事務局長として、約18億の人口を擁する地域を管轄してきたのだ。もちろん本人が言うとおり、感染症に国境はない。「アジアを統括してきたが、この地域だけに関心があるわけではない。SARS発生時には地球規模の拡大を懸念した」

事務局長に選ばれば、他の機関との連携を強化して改革を進めていくつもりだ。将来のニーズに対応できるシステムを構築したいと、尾身は言う。「(新しい感染症の)リスクは常にある。地球規模で人々の健康を守るには、この問題への目配りが欠かせない」

誰が勝つかはまだわからない。選挙の仕組みは複雑で、舞台裏の駆け引きも多い。だがトップに立つかどうかにかかわらず、人々の健康の守り手として、またそのための優れた外交官として、尾身の実績と能力に対する国際的な評価は揺るがないだろう。

アレクザンドラ・セノ(香港)

## 磨き抜いた技で世界に挑むヒーローたち

## ROES &amp; ICONS

ワ  
ダエミの真骨頂である歴史ものの衣装は、壮大なる遠い過去の世界へわれわれを誘い、同時に時代を超越していく。

『乱』（85）に登場した戦国日本の装束に、『宋家の三姉妹』（97）で再現した第二次大戦前のシックな上海スタイル。『HERO』（02）や『LOVERS』（04）の女剣

定だ。

プロ意識と情熱と愛の人——アカデミー賞4部門に輝いた『グリーン・デスティニー』（00）のプロデューサー、ビル・コンはワダをそう評する。これまで数作品で一緒に仕事をしてきたが、「ワダは毎回、前の作品を超えようとする」とコンは言う。「新作のたびに前作をしのぐ色使いを見せる。

ナンバーワンの衣装デザイナーの地位が揺らいだことはない。豊かな経験とたぐいまれな才能で、中国の映画製作者からも熱い支持を受けている。

### 壮大なスケールの存在感

日本と異なり中国では「歴史大作」が花盛りだ。「日本ではサムライが登場する江戸時代の超大作

たのも、コンだった。2人の「巨匠」には豊かな色彩への強い愛着という共通点があり、きつとうまくやれると確信したという。

コンの製作指揮の下、張とワダが取り組んだ『HERO』や『LOVERS』の映像美は忘れがたい印象を残した。それも、色と衣装の絶妙なコンビネーションによるところが大きい。

監督やプロデューサーがワダに愛と信頼を寄せるのは「作品の本質を形にする」からだ。香港演芸学院（HKAPA）デザイン学部を統括するビル・ヘイコックは指摘する。「ただ身に着けるための衣装ではない」

今年、ワダはHKAPAに招かれ、香港で講演を行った。会場は学生やプロのデザイン関係者であふれ返った。ヘイコックによれば、ワダの作品に並の尺度は通用しない。「壮大なスケールの伝統様式」をくんでいるからだ。

世界の映画界にワダのようなアーティストは再び現れるだろうか。HKAPAのレセプションで、小さな体をシンプルな黒のパンツスーツで包んだワダは学生たちに取り囲まれ、熱狂的な歓迎を受けていた——まるでロックスターのように。

今はまだ、ワダエミの独壇場だろう。その才能は国境を超えて輝きを放っている。



## 巨匠に愛される色彩の魔法

■ワダエミ (衣装デザイナー)

# Emi Wada

士たちがまとう羽衣のように軽やかなドレス……。細部への徹底したこだわりと洗練された職人技で、ワダは国際的に評価の高い映画や舞台に「魔法」をかけてきた。

今年末には中国の映画監督、張芸謀が演出するニューヨーク・メトロポリタン歌劇場の新作オペラ『ザ・ファースト・エンペラー』で、華麗なデザインを披露する予

常に次の作品が最高傑作になるタイプのアーティストだ

ワダは与えられたテーマを徹底的に調べ上げ、きちょうめんに作品を練り上げていくアーティストでもある。必要ならば、その作品に応じて生地を特注し、細かい条件に合うよう手染めをする。

『乱』でアカデミー賞衣装デザイナー賞を受賞してから20年、アジア

はない。クロサワのような監督はもういない」と、コンは言う。「最近の日本映画で製作費2000万ドル級の作品といえば、『日本沈没』くらいしかない」

近年は中国映画に参加することが多く、優れた職人や工房にも精通し、中国の服飾文化への造詣を深めてきた。中国映画の第一人者である張監督とワダを引き合わせ



# HE

## ガウディの哲学を石に刻む

■ 外尾悦郎 (彫刻家)

# Etsuro Sotou

**バ**ルセロナに住む外尾悦郎(53)は28年間、「石の聖書」を彫り続けている。その聖書とは、キリスト教をテーマにした装飾がいたるところに施され、着工から120年以上たった今でも天に向かって伸びる聖堂——アントニオ・ガウディが手がけたサグラダ・ファミリアだ。

福岡出身の外尾がこの地を踏んだのは、京都市立芸術大学を卒業した翌年の78年。石を彫りたいという漠然とした思いをかかえ立ち

寄った街で、吸い寄せられるようにガウディの未完の傑作と出会う。

テストを経て、聖堂に彫刻家として採用されてからはこの道一筋。00年に完成させた「生誕の門」は昨年、世界遺産に登録された。

外尾は単に石を彫っているわけではない。「彫刻家であり、ガウディの理念を後世に伝える哲学者だ」と、ガウディ研究の第1人者、ファン・パセゴダ・ノネルは言う。1930年代のスペイン内戦で資料の大半が消失し、完全な設計図がな

いサグラダ・ファミリアでは、「ガウディならどうしたか」を吟味し、創造していくことも重大な仕事なのだ。

全体像を考え、個々の彫刻に意味づけをしながら、外尾は意匠を生み出していく。「ガウディの作品だけを見ても、彼がそれに満足していたかはわからない。彼と同じ方向を見つめながら考えることが大切だ」と、外尾は言う。80年代、コンクリートを採用することになったときは強く反発した。「素材自体ではなく、現代の安易な物の

作り方に反対だった。ガウディならコンクリートをどう使ったかを考えたうえで、利用してほしいと思う」

素材が変わり、聖堂関係者や職人が次々と世を去り、最古参の1人となった。自宅の壁は使い古した道具で埋め尽くされている。それでもタオルを頭に巻き石と向き合うスタイルは28年間、変わらない。魂を込めてハンマーを振り下ろす音は観光客だけでなく、ガウディの耳にも届いているはずだ。

佐野尚史



## 心を癒やすNYのサムライ

■片岡昇(剣道師範)

# Noboru Kataoka

だが、今の彼女は別人のようだ。秘書として働く34歳のオルフェラは、「竹の刀」で人をひっぱたくことで心を癒やしている。「内気な性格を直すにはうつつけ」と、マンハッタンで剣道を習う彼女はほほ笑む。「剣道をやると、心が静まる。自信がわくし、ハッピーな気分になれる」

オルフェラら多くのニューヨークに剣道の手ほどきをしているのは、名師範として名高い片岡昇。片岡は30年前から、ニューヨークで剣道を教えている。片岡の弟子

たちは、古い教会の建物の最上階にある道場でけいこに励む。入門者クラスが始まる前に、スタートバックスで片岡に話を聞いた。一見するとごく普通の人のようで、剣の達人にはみえない。白いシャツと白いチノパンをこぎつぱりと身に着けた姿は、57歳とは思えないほど若々しい。

片岡はとつとつとした口調で剣道について語る。「精神論のような話はあまりしない。確かに剣道には集中力が必要だ。常に精神をびんと張り詰めていなければならぬ。竹の刀を本物の剣と思って振るう剣道は、演技と同じだ」

片岡が「演技」を引き合いに出すには、訳がある。片岡はケン・ケンセイの名で過去30年にわたつ

て、多くの映画に出演してきた。彼の名前は、クリント・イーストウッド監督の新作『硫黄島からの手紙』の出演者リストにも載っている。「子供のころは、時代劇のスターになりたかった」と、片岡は言う。

**ダンスの発想でけいこ**

今のところ、ハリウッドスターへの仲間入りは果たしていない。ただし、有名にはなった。今年5月、片岡のニューヨークとのかかわりや功績は、ニューヨーク・タイムズ紙で詳しく紹介された。

道場で生徒がけいこに励む様子は、武術というよりダンスのようだ。素足で、前に後ろに素早く動き、相手の竹刀をかわして技を決

## 海を渡るキッチンの麗人

■栗原はるみ(料理研究家)

**グ**ルマン世界料理本賞の大賞に『栗原はるみのジャパニーズ・クッキング』(日本語版・扶桑社)が輝いたのは昨年2月のこと。世界で年4000冊以上の料理本が登場することを思えば、これは快挙といえるだろう。

イギリスでの評判にもプラスに働きそうだ。版元は英デザイン界の巨匠テレンス・コンランが創設した出版社コンラン・オクトパス。9月には、同社から第2弾『はるみのジャパニーズ・ホーム・クッキング』が発売された。栗原は70種以上のレシピに加えて献立のヒントやテーブルの演出法を紹介する。

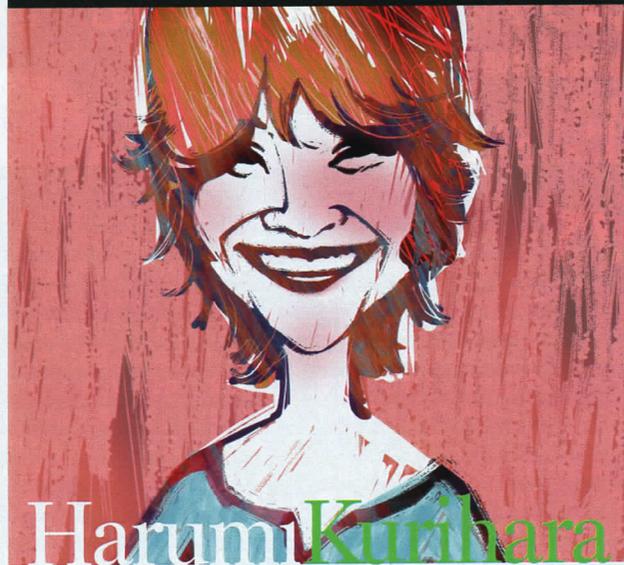
とはいえ、和食はまだマイナーな存在。「栗原はるみのジャパニーズ・クッキング」は批評家の受けもよく、ロンドンのメディアは「日本のマーサ・スチュワート」をこぞって取り上げたが、売り上げ部数は期待したほど伸びなかった。食材が手に入りにくいのも難点の1つ。和食は面倒でむずかしいというイメージもある。普通のイギリス人はわざわざインゲン豆のスジを取るようなことはしない。

それでも、日本料理を一般に広めようとする栗原の努力は専門家の間で多くのファンを集めた。「うちの店で出すタイプの料理ではないかもしれないが、味は素晴らしい」と語るのは、ロンドンのおしゃれな和食レストラン「ズマ」の料理人、コリン・クレグだ。「食材をすべてそろえて作るとなると、ちょっと冒険が必要になるけど、それも楽しみのうちだよ」

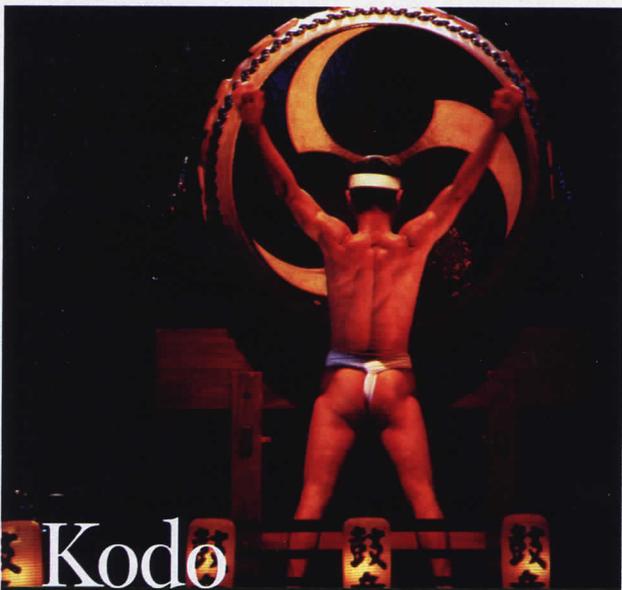
「ミソやみりん、カツオブシなどの材料をそろえさえすれば、彼女のレシピは簡単だ。(人気の日本食レストラン)ノブ風の料理が出来上がる」と、フードライターのトム・ジェーンは言う。

新しい料理本は果たして売れるだろうか。食のトレンドが栗原に味方しているのはまちがいない。「寿司ブームを背景にイギリス中に和食レストランが続々とオープンしている」と語る料理ライター、トム・フォートによれば、イギリス人に足りないのは「(和食に対する)深い知識」だとか。知識こそ、栗原の最も得意とするところだ。

ウィリアム・アンダーヒル(ロンドン)



# Harumi Kurihara



Kodo

## 大和魂は激しくセクシー

■鼓童(和太鼓集団)

**世**界を席卷する和太鼓集団「鼓童」の魅力は圧倒的なサウンドだけではなく、目を奪われる演出にもある。そこには音楽にとどまらない、ドラマがあるのだ。

伝統的な楽器を前に、奏者たちの後ろ姿がいっせいにピンと張り詰める。小さめの太鼓はまるで巨大なキッチンタイマーのようだ。1本の木をくりぬいて作られた大太鼓は、ボクサーのような体格の男性が丸太のようなバチでたたく。

打楽器の演奏であり、舞踏であり、儀式的な舞台でもある鼓童のパフォーマンスは過去20年以上、世界中で人気を博してきた。ライブ音楽の輸出に成功し、日本屈指の「文化使節」として活動している。これまで40カ国以上で3000回近く公演を行い、幅広い評価を獲得。モンティ・パイソンの元メンバーで今はドキュメンタリーを手がけるマイケル・パリノも、彼らの拠点の佐渡へ足を運び番組に収めたことがある。

「(鼓童の)太鼓は火の玉か、大砲か、輝かしい天体か」と、仏ルモンド紙の批評家はいち早く鼓童を取り上げ、熱狂的な賛辞を贈った。「演奏する男たちは神の化身ではないか」

美意識、技と伝統に対する敬意、厳しい修練。鼓童はこうした日本の美德を併せ持つ。さらにそこへ外国人があまり日本と結びつけることがない「ウィットとサービス精神」もつけ加えている。そばに寄ると、大音響にほおがブルブル震えるほど。それでも太鼓の木材と革、金属のびょう、そして綿の衣装はなんとも健やかで、気持ちしがらなく。

奏者たちの強靱な肉体と演奏技術はいままでもなく見事だが、それでいて堅苦しさや気取りがなく。今夏に参加したフジロックフェスティバルでは、大太鼓をはさんだ2人の打ち手が決闘さながらの演奏を披露。大いに場を盛り上げた。奏者は細いふんどしだけを身につけ、その鍛え上げられた後ろ姿が音楽に合わせて躍動する——オシャレな人気ギタリストやポップシンガーばかりが目につく野外音楽祭で、裸一貫で勝負する無名の太鼓奏者は誰よりもセクシーな存在だった。

リチャード・ロイド・バリー(英タイムズ紙東京支局長)

めようとする。生徒たちは、練習相手の竹刀を自分の竹刀でいずれかの方向に強く押すよう指導される。押し返されたところで力を緩めれば相手はバランスを崩し、そこにすぎがでる。片岡によれば、彼の剣道指導は演劇やダンスを教えてくれたアメリカ人教師の影響を受けているという。

道場には熱心な生徒が詰めかける。イラジ・モヘバリアン(50)は12年前から通っている。剣道のおかげで精神のバランスが安定し、集中力が養われたと、彼は言う。「疲れているときほど、練習を休まないようにする」

剣道の仲間が家族同然だ。モヘバリアンは2度、日本を訪れたこ

とがある。高知県にある片岡の実家に泊まり、彼の師匠に教えを受けた。

宗教学を学ぶ青木徹(31)は日本で15年間、剣道を習ったが、堅苦しい雰囲気嫌気が差してサーフィンに乗り換えた。だが3年前移り住んだニューヨークで健康維持などを目的に剣道を再開した。「日本の道場は厳しい」と、青木は言う。「この剣道のほうが日本より楽しい」

こうした声は珍しくないようだ。日本の道場より指導が緩やかなのは、意図的にそうしているからだ。片岡は言う。「私は剣道をよくわかってる。だから、ことさら厳しくする必要はない」

フライアン・ブレイカー(ニューヨーク)

## 気象界のミスター・トルネード

■藤田哲也(気象学者)

**ア**メリカの天気予報官の間では、今は亡き気象学者、藤田哲也の名前はおなじみだ。藤田が提唱したトルネード(竜巻)の規模の基準は「フジタスケール」として知られ、今でも広く使われている。

真にクリエイティブな科学者らしく、藤田の原動力は好奇心だった。若いころ、山に登って雷雲を調査しているうちに、冷たく湿った下降気流の存在に気づいた。

藤田はシカゴ大学の研究者が下降気流の計測を始めたことを知り、53年に渡米。シカゴ大学の研究員になった。

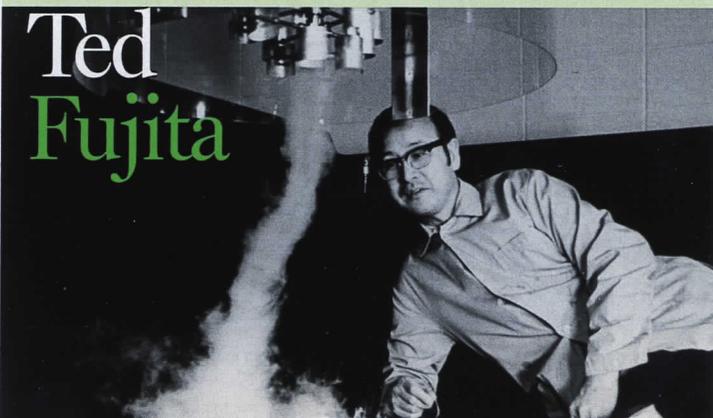
藤田の型破りな研究方法は議論を呼んだ。彼は飛行機から気象を

観察し、直感でハリケーンなどの仕組みを推測した。その手法ゆえ、仮説が仮説で終わることも多かった。だが彼の超人的な勤は、気象学という新しい学問の進歩に重要な役割を果たした。

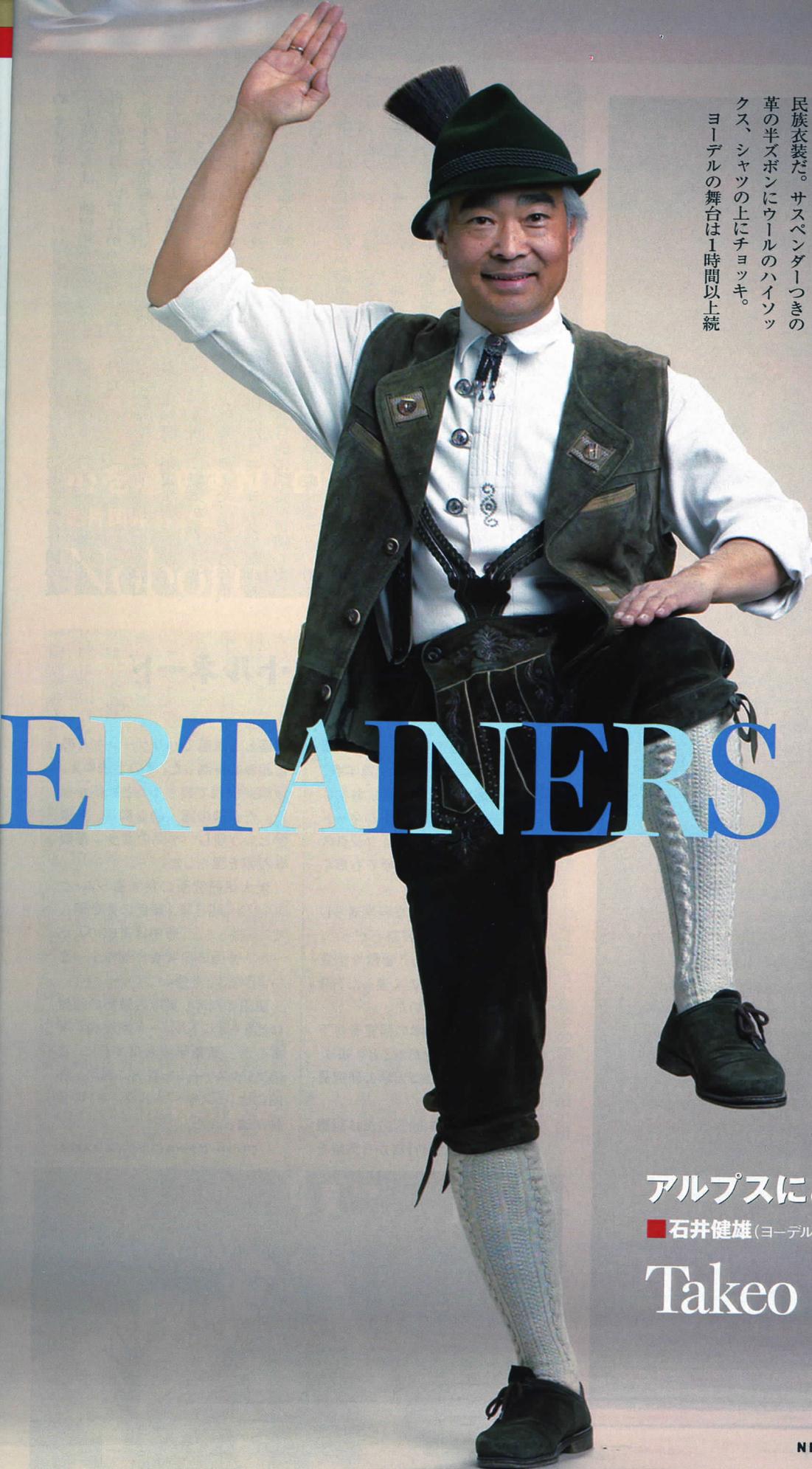
米大気研究所の科学者ジム・ウィルソンは98年、藤田の死を悼んでこう語った。「藤田は直感の人だった。普通の研究者が想像もしないようなことを思いついた」

藤田は71年、実際の被害の程度などをもとにトルネード階級表を考案した。気象学者らはすぐに、このフジタスケールを基準に採用。藤田には「ミスター・トルネード」の愛称が贈られた。

フレッド・グタール(本誌サイエンス担当)



Ted Fujita



# 暗

いステージにスポットライトが当たり、客席のドイツ人が沸く。黒い着物を着た白髪の日本人男性が、口を大きく開けてにこやかに笑いながら登場した。

大きな拍手に包まれ、男性は日本語で歌いはじめた。着物をさつと脱ぐと、下はバイエルン地方の民族衣装だ。サスペンダーつきの革の半ズボンにウールのハイソックス、シャツの上にチョッキ。

ヨーデルの舞台は1時間以上続

いた。アルペン民謡を歌い、客席とおしゃべりして、スイス、オーストリア、ドイツのスタイルを歌い分けた。アメリカのカウボーイのヨーデルも披露した。

石井健雄(59)はヨーデル界で最も忙しく、最も成功した歌手の一人だ。年間100以上の舞台に

立ち、民謡の大手レーベルからCDを出している。権威ある賞も受賞し、日本人がドイツ民謡を歌いこなせるのかという疑問を吹き飛ばした。

だが、石井は今も地元のホールで観光客を迎えるイベントの舞台に立つ。ここはそういう街であ

り、彼はそういう男だ。

バイエルンの伝統が残るライオンウインクルの街を、石井は愛してやまない。バルコニーに花があふれる美しい家、アルプスの草原、雪をいただいた山頂。

「夢のような暮らしだ」と石井は言う。81年にこの街へ来て、現在

## アルプスにこだまする歌声

■石井健雄(ヨーデル歌手)

# Takeo Ischi

は昔ながらの家に妻ヘンリエッテと4人の息子と暮らす。「健雄を見るためだけに街へ来る人もいる」と、観光局のハンス・ペーター・ウインマーは言う。

石井は子供のころ故郷の東京で初めてヨーデルを聞いた。15歳から自分でも歌うようになった。

「初めて聞いたときは、日本人に歌えるとは思わなかった。アメリカのカウボーイがヨーデルを歌っているレコードがあつて、それを聴きながら2カ月間練習した」

時代は60年代半ば。ティーンエージャーのほとんどがビートルズに夢中になるなかで、石井と数人の仲間がヨーデルの繊細さのとりこになり、輸入レコード店に通った。東京周辺の山に登って歌の練習もした。「革の半ズボンにシャツ、サスペンダーといった民族衣装も自分たちで作った」

### 「日本人でも関係ない」

26歳のとき、石井は愛する音楽を生んだ山並みを自分の目で見ようと決心した。父親の経営する麵乾燥機の製造工場で働いていた彼は、ドイツで機械の勉強をしたいと両親に話した。「母は本当の理由に気がついていただろう」

バイエルンに半年滞在した後、スイスのチューリヒに行った。地元のホテルで歌い、ヨーデルで初めて金を稼いだ。

そのころには、もう日本には帰

らないと決めていた。やがてヨーデルと民謡の大物歌手マリア・ヘルビツヒと知り合い、ドイツに誘われた。現在は常に数カ月先までの仕事が埋まっている。

「20年前にはプロの歌手がたくさんいて、そのうち10人くらいは成功した」と、石井は言う。「でも、その数はどんどん減り、今ではマリア・ヘルビツヒと彼女の娘、それに私くらいしかいないだろう」

石井はヨーデルの伝統を守ろうと懸命だ。たとえば、ラップなど流行の音楽にヨーデルのサウンドを使ってもらえるかもしれない。

順風満帆では決していない。「残念ながら、異国の動物を見るような目で私を見る人もいる」と、石井は言う。「きつと国のプライドに関係があるのだろう。私は成功してきたが、それでもガラスの天井ともいえる壁がある」

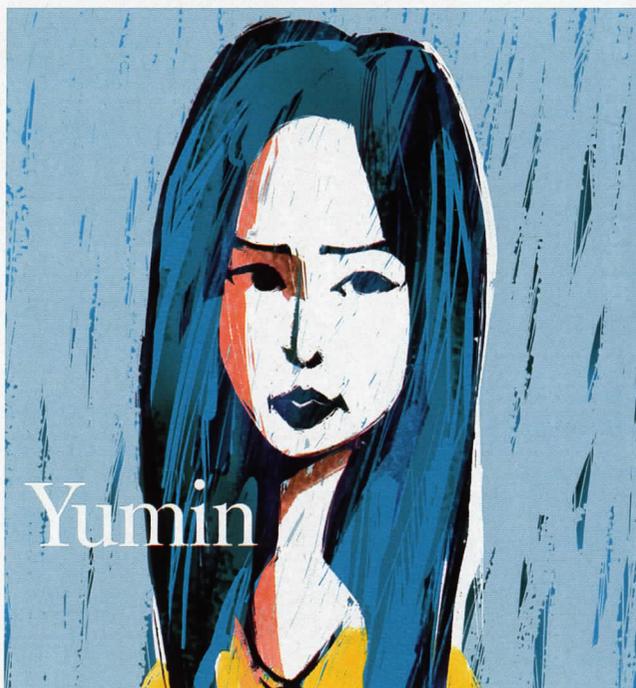
地元での舞台が終わると、石井はサインを求めるファンに囲まれた。元警官のハラルト・マイヤーはハンブルクから来た。「テレビで3、4回見たけれど、生は初めてだ。本当に感動した。石井が日本人でも関係ない。日本の民謡がどんなものかは知らないが、彼の歌うドイツの民謡は最高だ」

マイヤーはうれしそうに笑い、夜の通りを歩いて行った。サイン入りのポストカードは妻への土産にするよと言いながら。

ハンナクリーパー(ライトイッラウツル)

## 豊かな創造力で魅了するアーティスト

# ARTISTS & ENT



### 韓国芸能界の扉を開けて

■ 笛木優子(女優)

**日** 本人がヨン様など韓国スターを追いかける一方で、韓国人が夢中になっているのが日本人女優ユミンだ。笛木優子として活動する日本では、名前を知らない人も多い。しかし韓国では、地下鉄でもバスでも雑誌でもユミンに会える。数多くのテレビドラマと5本の映画に出演し、03年にはテレビの新人女優賞を受賞した。

人生の転機は99年。韓国映画『八月のクリスマス』を見た瞬間、「韓流」に転向した。韓国料理を食べ、韓国映画を何本も見て、韓国語の勉強を始めた。

01年に韓国へ渡り、2年越しの夢を実現させて女優としてデビュー。韓国での活躍が日本でも知られるようになり、今年はフジテレビのドラマにも出演した。

ただし韓国語は完璧ではなく、それが足かせになっているかもしれない。今年公開の映画『特別市の人々』で演じるのも、障害でしゃべれない女性の役だ。

2つの国の「懸け橋」になりたいと、27歳の笛木は折に触れて言う。その橋はときどき長くなるようにも思えるが、強い気持ちがあれば渡れることを彼女が教えてくれた。

李柄宗(ソウル)



# 木

村義一（73）の得意技は「だるま落とし」だ。といっても木村はビリヤードの球でそれをやる。

コーラ瓶2本を並べて立て、その上に球を二つずつ重ねて乗せる。白い手球を手前に置いた別の球にぶつけ、跳ね上がった手球で瓶上の下の球だけをはじき飛ばす。上の球だけが瓶の上に残る。世界中のビリヤードプレイヤーの間で「キムラ・ショット」として知られる名人芸だ。

15年ほど前に考えた最初のキムラ・ショット

は瓶1本だったが、「魅せるビリヤード」をめざし、瓶を2本に増やすなど、アレンジを加え続けている。球をジャンプさせるだけならとも

## ミリ単位で操る「曲球」の魔術師

■木村義一（ビリヤードプレイヤー）

# Yoshikazu Kimura

かく、ミリ単位で正確に球をコントロールするのは至難の業だ。テーブルの状態や湿度の変化にも左右される。その誤差をどう修正するのか。木村はあつげらかんちと答えた。「経験と勘ですかね」

「彼のもつ感覚は、神に与えられた才能だとしが言いがたい」と、華麗な技を成功させられるかどうかを競い合うアーティストリックビリヤードの世界大会で何度も優勝したアメリカのマイク・マッセル（59）は言う。「キムラの創造性は素晴らしい。思いもしないような作品を彼は作る」

### 不可能が可能になる技

一度のショットで球を六つも七つも入れる。強烈なスピンをかけて、変幻自在に手球を操る。手球でコインを飛ばし、何メートルも離れたグラスに入れる。難易度が高い技を木村は多く生み出した。

長年、印刷会社で働いていた木村にとって、ビリヤードは趣味にすぎなかった。67年に激務で体調を崩したのを期に京都のビリヤード場「白バラ」の店長に。82年に店のオーナーの座を継いだときにプロになった。「ビリヤードをやる人に興味をもつきっかけになれば」と思い、独自の技を考えるようになったのはこのころだ。

木村を有名にしたのは一本のビデオテープだ。木村は、思いついた技を忘れないために技を撮影し

ていた。約130の「作品」が詰まった45分のビデオテープは関係者を通じて少しずつ広まった。

その一つを、91年に偶然目にして、アメリカに持ち帰ったのが、ロサンゼルス在住の日系3世、オオバヤシ・ヒデキ（65）だった。「本当に驚いた。キムラ・ショットのような技はそれまで見たことも聞いたこともなかった」

オオバヤシが地元のテレビ局やビリヤード場に紹介すると、すぐに木村にスポンサーがついた。ロサンゼルス国際トーナメントに招待され、テレビ出演の話も舞い込んできた。

「不可能だと思われていた技が、実は可能であると証明したことがキムラの功績だ」と、ビリヤードに関する著書を多くもつロバート・バーンは指摘する。「多くのプロが、よりむずかしい作品を考えようと努力するようになった」

以前は、勝ち負けを競うナインボールなどの大会の余興にすぎなかったアーティスティックビリヤードだが、90年代以降、徐々に人気が上昇。世界大会も開かれるようになった。木村は「その開拓者の一人だ」とバーンは言う。

公式の大会で公認されている技のなかには木村が考案したものも多く含まれる。大会から木村は姿を消した。だが「キムラ」の名が世界から消えることはない。

上杉洋司

水がフィルター  
www.venta.co.jp

乾燥した空気を  
「水」で洗うという発想

- ・ドイツシェア NO.1 \*
- ・フィルターパッドは使いません
- ・水がフィルターです
- ・ホワइटダストは放出しません
- ・シンプル設計

\*2003年 GFK 調べ

VENTA model LW 44



reddot design award  
winner 2003

加湿  
空気浄化  
1台2役



ドイツからやってきた、空気浄化機能付加湿器

Venta-Airwasher

ベンタ エアウォッシャー

### ベンタ エアウォッシャー

乾燥したほこりっぽい空気を、潤いのあるきれいな空気に劇変えます。自然蒸発により加湿し、水によるフィルターで空気を洗い、お部屋を爽やかにします。ニオイのするフィルターパッドの交換は不要で、メンテナンスも簡単です。

- ・お部屋の広さに合わせて選べる3タイプ
- ・ホワイトモデルもあります

<お取り扱い店>

- ・ヤマギワリビナ本館 ・東急ハンズ ・日本橋 三越 本店
- ・高島屋 東京店 ・東急百貨店 本店 ・伊勢丹 新宿店
- ・松屋 銀座店 ・大丸百貨店 (神戸店 ・京都店)
- ・阪急百貨店 梅田本店 ・京王アートマン
- ・ヨドバシカメラ ・ビックカメラ ・100 満博ルト
- ・ミドリ電化 ・テンコードー ・コジマ
- ・さくらや ・ジョーシン

※一部お取り扱い店となる店舗・お取り扱いのない店舗もございます。  
取り扱い店の詳細はホームページもしくはお電話でご確認ください。

商品のお問い合わせは

ベンタ ジャパン株式会社

E-mail info@venta.co.jp

TEL (0774) 98-3551

FAX (0774) 98-3651

URL http://www.venta.co.jp/

venta  
LUFTWÄSCHER



## 情熱の舞いで聖地に挑む

■鍵田真由美 (フラメンコダンサー)

■佐藤浩希 (フラメンコダンサー)

# Mami & Hiro

今

なら想像もつかないだろうが、鍵田真由美は初めてスペインに行ったところは泣いてばかりだった。

鍵田 (41) とパートナーの佐藤浩希 (34) は、今や日本のフラメンコ舞踊界のトップスターだ。スペインでは「マミ・イ・ヒロ (マミ&ヒロ)」の名前で知られ、数々の賞を受賞し、東京とフラメンコの聖地ヘレスの間を年に3回往復する。

04年には近松門左衛門の原作を基にした『FLAMENCO』曾根崎心中」で、フェスティバル・デ・ヘレスにスペイン国外の舞踏団として初めて正式参加した。デイアリオ・デ・ヘレス紙でデビュー・フェルナンデスが次のように評している。

「日本版『ロミオとジュリエット』を独創性あふれるスタイルで、コンプレックスをまったく感じさせずに舞った」  
もともと、いつも自信にあふれていたわけではない。91年にスペインへ向かう飛行機の中で、鍵田は涙が止まらなかつた。「スチュワーデスたちに、大丈夫ですかと声をかけられた」と、鍵田は言う。「フラメンコのために、スペインへ行かなければならない、すべてを日本に置いて行くんだ、そう思っていた」

スペインでは朝も昼も夜も踊り続けた。「夜になると顔が半分麻痺していた。ベッドに倒れ込んでどこがいけないのだろうと悩み、朝になるとまた踊っていた」

そんな鍵田の踊りに出会ったのが佐藤だ。介護福祉士の勉強をしていた佐藤は92年に友人たちに連れられ、初めてフラメンコのクラブをのぞいた。鍵田は6歳からモダンダンスを習っていたが、佐藤はダンスに縁がなかった。

「すごい衝撃だった」と、佐藤は言う。「これこそ自分の探していたものだと思った。彼は鍵田のスタジオのドアをたたき、4年後の96年に河上鈴子スペイン舞踊新人賞を受賞した」

現在、2人はヘレスに家を持ち、東京・渋谷の近くにもフラメンコスタジオ「アルテ・イ・ソレラ (芸術と伝統)」を構える。心の本拠地はあくまでもスペインだ。

「2人の東洋人がフラメンコを選んだことが、まちがっていないか」と証明したい」と言う鍵田は、いったん舞台を降りるとまじめでもの静かに見える。一方、「フラメンコは人生」と言いきる佐藤は口調も情熱的だ。「私たちがここカッブルでしょう」と鍵田は笑う。

その化学反応が、マミ&ヒロをフラメンコの故郷で輝かせる。

テオドリス 東京

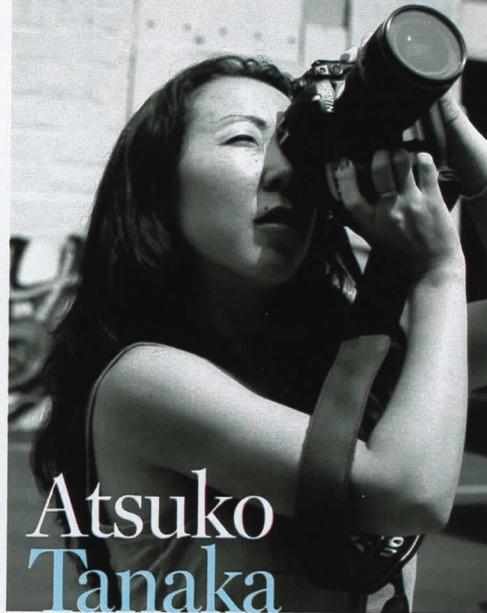
# 風

景を撮る写真家もいれば、スーパードモデルを撮る写真家もいる。マンハッタン在住の田中淳子(33)は、ヒップホップ・スターを撮るエミネムにアシヤンティ、ディアンジェロ、ブラック・アイド・ピーズ……。

「写真を撮り始めたのは18か19のころだった」と、田中はマンハッタンのミートパッキング・ディストリ

## ヒップホップの魂をつかむカメラ

■田中淳子(フォトグラファー)



Atsuko Tanaka

リース、タイムなどアメリカ有数の人気雑誌に採用されてきた。「こんなにたくさんさんの写真を使ってももらえる写真家は珍しい」と、本人も言う。「誰かに作品を見せると、『スターはあらかた撮ったね』と言われる」

田中は歌詞の意味もわからずにヒップホップを聞きながら、東京で育った。18歳でファッションの道を志し、カリフォルニアの大学

売れっ子写真家の仲間入りを果たした。

田中のウェブサイト (<http://www.atsukotanaka.com>) を見れば、引く手あまたの理由はよくわかる。田中のポートレートは被写体の気取りをはぎ取り、生の喜怒哀楽、ときには孤独な魂をもえぐり出す。

たとえば、マッコイで派手なイメージのラッパー、50セントは黒い野球帽をかぶり、白い壁をバックに愛い顔だ。「見る人に、写真の背景の空気まで感じてもらえたらうれしい」と、田中は言う。

クトで遅い昼食をとりながら言う。「こういう写真を撮りたいかなんて、わからなかった。でもずっとヒップホップが好きだったから、大好きなアーティストを撮ろうと思った」

怖いもの知らずな夢だ。写真で食べていくどころか、作品が目の目を見ることすらない写真家志望は、ごまんといえるのだから。

だが、田中の写真はバイブヤト

に進学。だが、授業で写真を学んだのをきっかけに、進路を変えた。

**セレブの気取りをはぐ**

日本の雑誌に売り込みをかけたところ、若者向け雑誌Fineが初仕事をくれた。その後は数年間、ブラック・ミュージック・レビューやBLASTといった日本の音楽誌で活躍。程なくアメリカの雑誌からも声がかかるようになり、

作品には興行きがある。彼女には被写体の魂をつかむ才能がある

最近、大手レコード会社のアルバムジャケットの写真撮影を依頼されるようになった。音楽専門チャンネルVH1の番組でも、田中が撮ったネリーやJAY-Zのポートレートが使われる。

業界での田中の存在感は大きくなる一方だ。

PHOTOGRAPH BY KYLE WOOD

## 70歳を超えても世界のニナガワ

■蜷川幸雄(演出家)

### 英

ナショナル・シアターの芸術監督だったトレバー・ナンは、03年にシェークスピアの『ペリクリーズ』を上演することにした。だが、イギリス人の演出家では、この難作をこなせそうになかった。

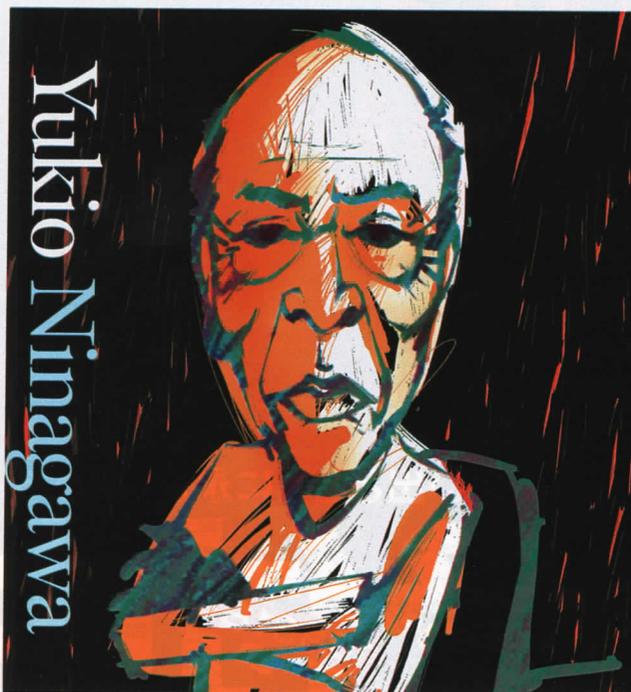
それなら、蜷川幸雄はどうだろう? 蜷川と関係の深いプロデューサーのセルマ・ホルトは、ナンがこう言ったのを覚えている。「イギリス人には無理でも、ニナガワならできるだろう」——読みは当たり、観客も批評家も蜷川の舞台に熱狂した。

蜷川がイギリスで注目されるよう

になったのは、86年にギリシャ悲劇『王女メディア』をエディンバラフェスティバルで上演してからだ。以来、蜷川はヨーロッパの古典に新風を吹き込み、絶大な支持を得てきた。彼の手にかかると、『マクベス』にも満開の桜が咲く。

10月15日で71歳になる蜷川は今も意気盛ん。夏には英ロイヤル・シェークスピア劇団で『タイタス・アンドロニカス』を手がけた。「ニナガワの才能は世界中で評価されている」と、ホルトは言う。「天才の力を見抜ける観客は、どこにでもいる」

エミリー・フリンベック(ロンドン)



Yukio Ninagawa

## Coba

**coba** アコーデオニスト、作曲家。18歳のときにイタリアへ留学。ベネチアのルチアーノ・ファンチェルリ音楽院アコーディオン科を首席で卒業し、数々の国際コンクールで優勝した。人気の高いヨーロッパでは15年前から毎年ツアーを行い、ビョークとのツアーも好評だった。今年、最も活躍したリード楽器演奏家に贈られる「ヴォーチェ・ドロコ(金のリード賞)」を受賞することが決定している。



## Deep Impact

**ディープインパクト** 日本競馬史上2頭目の無敗3冠馬に輝いた牡4歳馬。父親はアメリカの人気競走馬で、種牡馬としても伝説的なサンデーサイレンス。国際競馬統括機関連盟(IFHA)が7月に発表した世界競走馬ランキングでは1位タイに選ばれた。今月、ヨーロッパ最高峰のレース凱旋門賞に出走し、惜しくも3着に敗れたものの、レース直前のオッズは単勝でフランスの最低ライン1.1倍を記録した。

## Takeshi Fujimaki

**藤巻健史** 債券・為替ディーラー、フジマキ・ジャパン社長。JPモルガン(現JPモルガン・チェース)在籍時代に名をはせ、資産家ジョージ・ソロスの投資アドバイザーを務めた。

## Yutaka Fukufuji

**福藤豊** アイスホッケー選手。昨年、日本人として初めてNHL(北米プロアイスホッケーリーグ)のチーム(ロサンゼルス・キングズ)と契約を結んだゴールキーパー。昨季はけがのため、主に3部リーグでプレーしたが、シーズン途中から2部リーグに復帰。今季は念願の1部リーグ出場をねらう。

## Mitsumasa Anno

**安野光雅** 絵本作家、画家。代表作は『ふしぎなえ』『あいうえおの本』『もりのえほん』など。繊細で遊び心ある作風で知られる。84年に『旅の絵本』で、児童文学のノーベル賞といわれる国際アンデルセン賞画家賞を獲得した。

## Mao Asada

**浅田真央** フィギュアスケート選手。95年からスケートを始め、昨年の世界ジュニア選手権で優勝。年齢規定のためトリノ冬季五輪には出られなかったが、世界選手権5回優勝のミシェル・クワンを指導したラファエル・アルトゥニアンをコーチに迎え、10年のバンクーバー冬季五輪をめざす。

## Tadanobu Asano

**浅野忠信** 映画俳優。独特の存在感の持ち主で、海外からのオファーも多い。タイのベン・エグ・ラッタナルアーン監督の作品『地球で最後のふたり』で、03年のベネチア国際映画祭コントロコレンテ部門主演男優賞を受賞。来年公開予定のセルゲイ・ボドロフ監督作『モンゴル』では、主役のチンギスハンを演じる。

## Shigeru Ban

**坂茂** 建築家。紙の筒を建物の構造体に用いる「紙の建築」を世界で初めて考案。マイノリティー層の住宅や緊急災害時の仮設住宅も手がける。

## Buffalo Daughter

**バッファロー・ドーター** オルタナティブバンド。欧米で人気が高く、96年にビースティ・ボーイズが運営するレーベルからアメリカデビュー。

## Tadao Chiba

**千葉忠夫** 日欧文化交流学院院長、N.E.バンクミケルセン記念財団理事長。67年、福祉の勉強を志してデンマークへ渡る。社会福祉や農業など、デンマークの優れた部分に触れることを目的とした日欧文化交流学院を設立。社会福祉専修コースや語学文化コースなどを設け、日本からの学生も受け入れている。

## Shunichi Akasofu

**赤祖父俊一** 理学博士、アラスカ大学国際北極圏研究センター所長。オーロラの世界的権威として知られる。地上と宇宙の観測装置を駆使して、オーロラ活動のメカニズムの解明と地球温暖化の研究に取り組んでいる。

## Anne

**杏** ファッションモデル。昨年、パリコレデビューし、その後もルイ・ヴィトンやマーク・ジェイコブスのショーに出演するなど、世界の舞台で活躍。



で、世界で輝くジャパニーズ

OF THE BEST

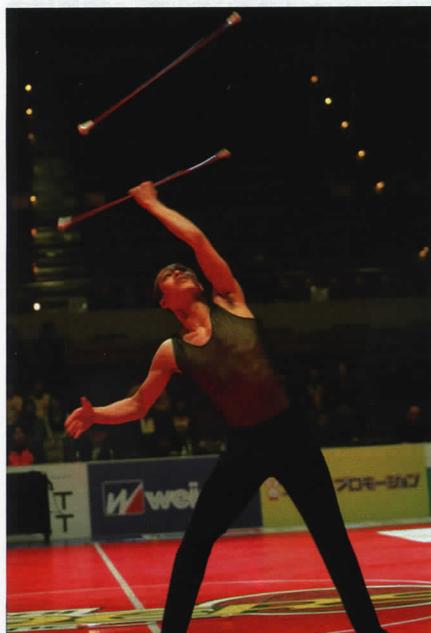


## Ebizo Ichikawa

**市川海老蔵** 歌舞伎役者、俳優。04年に11代目市川海老蔵を襲名。同年10月、パリの国立シャイヨー宮劇場で海外での襲名披露公演を行った。来年3月にはバリオペラ座で公演を行う。

## Taizo Ichinose

**一ノ瀬泰造** 戦場カメラマン。72年にフリーカメラマンとしてカンボジアに入国。内戦取材し、戦場の兵士を撮影した「安全へのダイブ」でUPIニュース写真月間最優秀賞を受賞した。翌年、単身でアンコールワットをめざし、そのまま消息を絶った(82年に死亡が確認された)。



## Seishi Inagaki

**稲垣正司** スポーツバトン選手。アメリカで発展したスポーツバトンを6歳で始め、すぐに頭角を現す。世界選手権では前人未踏の11連覇を達成(95~05年)。今年にはミュージカルパフォーマンス「ブラスト2:MIX」のメンバーとして日本各地を飛び回っている。

## Saho Harada Emiko Suzuki

**原田早穂、鈴木絵美子** シンクロナイズドスイミング選手。スピードとパワーあふれる演技が持ち味。04年のアテネ五輪に日本代表メンバーとして出場し、銀メダルを獲得した。その後、ベテランが抜けてからデュエットの代表となり、昨年の世界選手権は3位に。

## Tadashi Hattori

**服部匡志** 眼科医。01年に学会で知り合ったベトナム人医師に懇願され、翌年より同国にて眼科医療活動をスタート。以来、2000人を超える患者を治療している。不足する医療器具は自腹で買いそろえ、貧しい市民には無償で診療・手術を行う。一方で、ベトナム人医師に網膜硝子体手術の技術を伝授する活動も積極的に行っている。

## Takayuki Hayashi

**林孝之** アイリッシュダンスを現代風にアレンジした舞台「リバーダンス」のダンサー。同作品に魅入られ、01年に会社員を辞めてアイルランドへ。02年からアイリッシュダンスを始め、04年には世界選手権出場を果たした。昨年「リバーダンス」のオーディションに合格し、日本を含めたアジアツアーに参加した。

## Yuji Hirayama

**平山ユージ** フリークライマー。19歳でフランスに渡り、プロとして活動。98年のワールドカップで、日本人では初めてシリーズ総合優勝を飾った。00年には2度目の総合優勝を達成。

## Seiji Horibuchi

**堀淵清治** ビズメディアLLC会長。86年に同社の前身となる会社を設立し、翻訳コミックの発行や吹き替えアニメーションの配給を行う。02年に「週刊少年ジャンプ」のアメリカ版(月刊)を創刊。インターネットを活用しながら日本の漫画やアニメカルチャーを世界に発信し続けている。

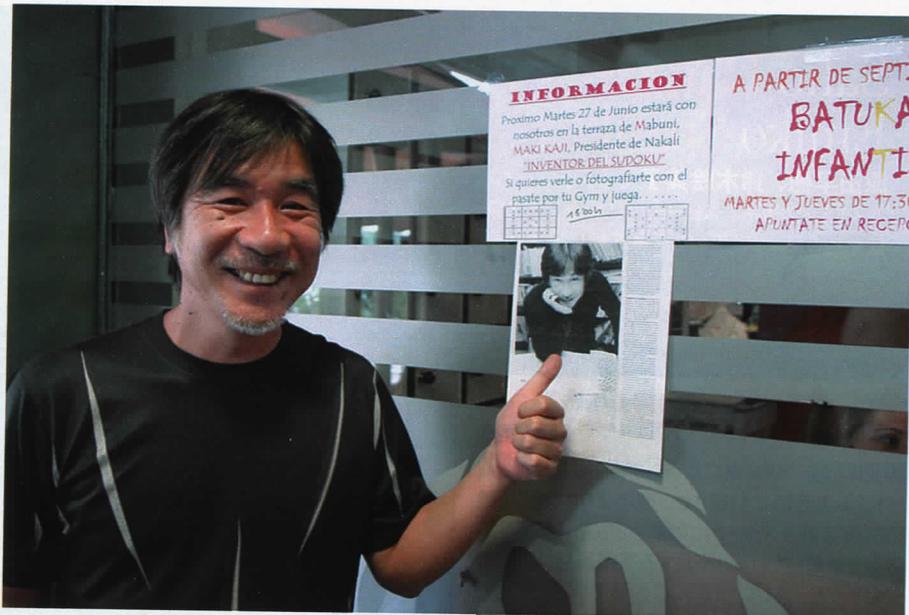


## Keizo Funatsu

**船津圭三** 冒険家。平均気温が氷点下20~30度という極寒の中で、アラスカ中部フェアバンクスーカナダ・ユコン準州南部ホワイトホース間の1600キロを走破する犬ぞりレース、「ユコンクエスト」に97年から2年連続出場。



# 科学者から三味線奏者ま RESTO



## Hiroshi Kikuta

**菊田浩** バイオリン製作者。01年に独立し、ポーランドのヘンリック・ビエニアフスキ国際バイオリン製作コンクールで優勝。イタリアのクレモナ在住。

## Etsuko Kita

**喜多悦子** 日本赤十字九州国際看護大学教授。国際協力事業団(JICA)、厚生省、ユニセフを経て、97年からWHO(世界保健機関)本部に勤務。難民・紛争問題をかかえる国で医療・保健衛生の向上に力を注いだ。01年より現職。

## Arata Kochi

**古知新** WHO(世界保健機関)マラリア対策本部長。89年にWHO結核対策責任者に就任し、DOTS(直接監視下短期化学療法)戦略の普及に努めた。その後も感染症対策に取り組む。



## Maki Kaji

**鍛冶真起** パズル会社、ニコリ社長。専門雑誌の出版も手がける。1ケタの数字と3×3のブロックを使ったパズル「ナンバープレース」を「数独」と名づけ、自社の雑誌などで紹介。04年11月に英タイムズ紙が「SUDOKU」として掲載したところ人気が呼び、その後、欧米で爆発的なブームとなった。

## Toru Kamikawa

**上川徹** サッカー審判員。98年から国際Aマッチで笛を吹く。02年に続き選出された今年のサッカーワールドカップ(W杯)では、1次リーグの2試合で主審を担当。毅然としたジャッジが評価され、3位決定戦でも主審を務めた。

## Koharudanji Katsura

**桂小春団治** 落語家。00年に落語家として初めてエディンバラ芸術祭に参加。以来、字幕を駆使しながら、落語を通じた国際交流と落語普及をめざし世界各地で公演を続ける。昨年、NPO法人「国際落語振興会」を設立したほか、文化庁文化交流使に任命された。

## Yoshikatsu Kawaguchi

**川口能活** サッカー選手。W杯代表に3度選ばれ、現在も日本代表のゴールを守る。欧州移籍後、不遇の時期を過ごしたが、今年の独W杯でのプレーは地元でも評価された。

## Kazuo Ishiguro

**カズオ・イシグロ** 作家。5歳で渡英し、イギリスを拠点に英語で執筆。82年のデビュー作『わたしの遠い夏』で英王立文学協会賞を受賞。英ブッカー賞を受賞した89年の『日の名残』は映画化された。最新作『わたしを離さないで』も、昨年のブッカー賞最終候補に選ばれた。

## Hiroshi Ishii

**石井裕** マサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ教授。デジタル情報を直接手で操作するインターフェース構想の研究で知られる。今年のCHI(コンピュータ・ヒューマン・インタラクション)アカデミー賞を受賞。

## Joi Ito

**伊藤穰一** IT起業家の草分け的存在。ネット黎明期にデジタルガレージ、インフォシークなどの企業を数多く立ち上げた。ベンチャーキャピタリストでもある。日本におけるブログの普及にも一役買い、英ガーディアン紙がブログ界の有名人として取り上げたこともある。

## Mako Iwamatsu

**マコ・イワマツ** 映画俳優。15歳のとき、すでに渡米していた両親を追ってアメリカへ渡り、59年にハリウッド映画に初出演。66年の『砲艦サンパブロ』では、アカデミー賞助演男優賞の候補に。60年代に劇団「イースト・ウェスト・プレイヤーズ」を立ち上げ、アジア系アメリカ人俳優の地位向上に貢献した。今年7月に72歳で死去。

## Toru Iwatani

**岩谷徹** ゲームクリエイター。80年、業務用ゲーム機『パックマン』を世に送り出す。87年までに世界中で30万台近く販売し、05年に「最も成功した業務用ゲーム機」としてギネス世界記録に認定された。家庭用ゲーム機にも移植され、世界的なヒットに。レースゲーム『リッジレーサー』などの開発にも携わった。



## The Japanese Jesus

**キリスト伝説** キリストが生き延び、日本にやって来たという言い伝え。青森県の新郷村にはキリストの墓とされるものがあり、毎年6月には慰霊祭が開かれる。取材に訪れる海外のメディアや国外からの観光客が後を絶たない。

# REST OF THE BEST

## Takao Ohki

**大木隆生** 東京慈恵会医科大学血管外科教授。人工血管(ステントグラフト)を使った大動脈瘤外科手術の名医として、血管外科の先進国アメリカで11年間活躍。専門家の育成を目的に今年7月から東京へ拠点を移し、現職。

## Yukiko Oishi

**大石由紀子** 人身売買の外国人被害者のための相談窓口「Oishiサポートセンター」を神戸の自宅に開設。公的保護施設や支援組織への仲介だけでなく、被害者の心のケアにも取り組む。

## Eriko Osaka

**逢坂恵理子** 水戸芸術館現代美術センター芸術監督。意欲的な企画展や才能を発掘する手腕が高く評価されている。01年のベネチア・ビエンナーレでは日本館のコミッショナーを務めた。

## Masutatsu Oyama

**大山倍達** 極真空手の創始者。65年に国際空手道連盟極真会館を正式に創設。50年代から世界各地で空手の指導を行う。94年に死去。

## Minoru Saito

**斉藤実** ヨットセーラー。単独世界1周レースを3度完走。単独無寄港世界1周を世界最高齢(71歳)で達成し、米ヨット博物館の殿堂入り。

## Kyu Sakamoto

**坂本九** 歌手、俳優。61年の「上を向いて歩こう」はアメリカでもヒット。63年のビルボードチャートで3週連続第1位に輝き、翌年、アメリカ人以外で初のゴールドディスクを獲得。国内外の多くのミュージシャンがカバーしている。85年、飛行機事故で死去。



## Sadako Sasaki

**佐々木禎子** 原爆犠牲者。2歳のとき広島で被爆し、12歳で死去。広島平和記念公園「原爆の子の像」のモデル。闘病中の折り鶴のエピソードは、「サダコと折り鶴の物語」として絵本や小説、紙芝居になり世界に広がっている。



## Tetsu Nakamura

**中村哲** ベンチャー会現代表・医療サービス総院長。84年にパキスタンへ赴任。同国とアフガニスタンに1つの病院と4つの診療所を設け、年間16万人の診療と医療スタッフの育成を行っている。医療活動の一環として「緑の大地計画」を立ち上げ、水源確保や土壌改良、ケシに代わる換金作物の研究も行っている。

## Masataka Nakazawa

**中沢正隆** 東北大学電気通信研究所教授。高速光ファイバー通信に革命をもたらした功績が評価され、アメリカの学術文献データベース会社トムソンサイエンティフィックから今年の栄誉賞を受賞。ノーベル賞の有力候補とも目されている。

## Naruto

**ナルト** 漫画・アニメのキャラクター。週刊少年ジャンプで99年から連載中の『NARUTO -ナルト-』(岸本斉史作)の主人公で、忍者をめざす少年。02年、アメリカのアニメ専門チャンネルでアニメ版の放送が始まり、爆発的な人気を呼んでいる。放送回数は200回を超えた。

## Keiji Nishioka

**西岡京治** ブータンの「農業の父」。海外技術協力事業団(OTCA)の一員として64年に赴任。農業技術指導を行い、生産力を飛躍的に向上させた。80年、国王から最高の称号「ダショー」を授与。92年に死去したときは国葬が営まれた。

## Korin Ogata

**尾形光琳** 江戸中期の画家、工芸家。琳派の代表的作家で、国宝「燕子花(かきつばた)図」などを残した。1880年に日本美術研究家アーネスト・フェノロサが作品を購入してから、世界的な評価が高まった。ルイ・ヴィトンのモノグラム誕生にも影響を与えたといわれる。

## Mitsuyo Maeda

**前田光世** 柔道家。今でも史上最強と評される。1908年に20代でアメリカへ渡り、異種格闘技戦で連戦連勝を収めた。その後ブラジルへ移り柔道を広めたことが、グレイシー柔術の誕生につながった。41年、ブラジルで死去。

## Shunmyo Masuno

**研野俊明** 建功寺(神奈川県)住職、庭園デザイナー。ベルゲン大学(ノルウェー)の「静寂の庭」、カナダ国立文明博物館の庭園など、国外でも日本庭園の設計を手がけている。今年3月、ラトビア政府が主催した「追悼慰霊公園」の国際コンペティションで1位を獲得。

## Fujio Mitarai

**御手洗富士夫** キヤノン会長。95年に社長に就任後、改革に着手。経営資源をプリンター、カメラ、半導体製造装置などに集中させ、セル生産方式を導入して効率化を図り、同社をグローバル優良企業へと変身させた。今年5月、経団連会長に就任。

## Daido Moriyama

**森山大道** 写真家。メトロポリタン美術館(ニューヨーク)やカルティエ現代美術館(パリ)など世界各地で個展を開き、高く評価された。



## Kiharu Nakamura

**中村喜春** 芸者、文筆家。英語が話せる芸者として、チャーリー・チャプリンらと交流。56年にアメリカへ渡り、芸を指導したり本を執筆した。アーサー・ゴルドンが97年に書いた「さゆり」(後に映画化)には、彼女への謝辞が記されている。04年に90歳で死去。

## Shuji Nakamura

**中村修二** カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授。日亜化学工業の研究員時代に青色発光ダイオード(LED)を開発した。今年9月にフィンランドの「ミレニアム技術賞」を受賞。

## Etsuko Takano

**高野悦子** 映画館「岩波ホール」総支配人、国立近代美術館フィルムセンター名誉会長。74年から「エキブ・ド・シネマ(映画の仲間)」運動を始め、世界中の埋もれた名画の発掘・紹介に奔走する。映画監督からの信頼も厚い。

## Sawako Takeuchi

**竹内佐和子** 工学博士、経済学博士。04～06年に世界銀行の都市部門エコノミストを務め、現在は京都大学大学院の特命教授、日産のリーダー養成プログラムのアドバイザーなどを兼務。選出はされなかったが、昨年OECD(経済協力開発機構)の事務総長選に立候補した。

## Ikko Tanaka

**田中一光** グラフィックデザイナー。無印良品が誕生した80年から02年に死去する直前まで、チーフアドバイザー、アートディレクターとして携わる。

## Chikako Taya

**多谷千香子** 法政大学法学部教授。01～04年、国連がオランダ・ハーグに設立した旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷で判事を務めた。戦犯を裁いたことがある唯一の日本人。

## Takashi Shimizu

**清水崇** ホラー映画監督。日本だけでなくアジア中でヒットした『呪怨』シリーズを、自らハリウッドでリメイク。アメリカ進出第2弾作品は、岩井均の漫画『寄生獣』の実写版になる予定。

## Yukika Soma

**相馬雪香** NGO法人「難民を助ける会」会長。79年から難民支援や対人地雷廃絶に取り組む。97年、地雷禁止国際キャンペーンのメンバーとして、同会がノーベル平和賞を共同受賞。



## Hiroshi Sugimoto

**杉本博司** 写真家。70年にアメリカへ渡り、78年より『劇場』シリーズの撮影を開始。1920～30年代に建てられた映画館や全米各地のドライブインシアターをとらえ、世界的な評価を得る。01年にハッセルブラッド国際写真賞を受賞。

## Ai Sugiyama

**杉山愛** テニスプレーヤー。伊達公子の後を継いだ日本のエース。ダブルスで強さを見せ、4大大会で優勝と準優勝を3回ずつ果たした。WTA(女子テニス協会)ランキングの過去最高位はシングル8位、ダブルスは1位。

## Daisetsu Suzuki

**鈴木大拙** 仏教学者。禅思想についての多数の英文書籍を執筆し、禅ブームの火つけ役となった。アメリカ生活が長く、ハーバード大学などでも講演を行った。66年に95歳で死去。

## Toshifumi Suzuki

**鈴木敏文** 日本最大の流通グループ、セブン&アイ・ホールディングス会長兼CEO。73年にセブンイレブン・ジャパンを設立し、業界トップに育て上げた。「タンピンカンリ(単品管理)」は世界中で取り入れられている。昨年、中央大学理事長に就任。経営術を応用した新しい大学づくりを推し進めている。

## Miyuki Takahashi

**高橋みゆき** バレーボール選手。170センチと小柄ながら、高いスパイク決定率を誇る。所属チームのNECから派遣されたイタリア1部リーグのピチエンツァで昨シーズンを過ごし、今シーズンもイタリアに残る。

## Shurei Sasai

**佐々井秀嶺** 仏教僧。68年からインドで仏教の布教活動を始め、88年にインド国籍を取得。03年にインド政府の少数者委員会の仏教徒代表委員に就任し、同国に約1000万人いる仏教徒の地位向上をめざして議会で働きかけている。

## Takuji Sasaki

**佐々木卓治** 独立行政法人・農業生物資源研究所のゲノム研究グループ長。イネゲノムの専門家で、国際イネゲノム塩基配列解析プロジェクトの議長を務めた。責任執筆者を務めた02年の論文が認められ、04年に国連食糧農業機関と国際イネ研究所から国際コム年記念科学論文の最優秀賞を獲得。

## Oki Sato

**佐藤オオキ** デザインオフィス、nendo代表。02年にnendoを設立し、携帯電話などのプロダクトデザインや空間デザイン、建築などさまざまなフィールドで活躍。ミラノ・サローネをはじめとする海外家具見本市でも高い注目を集めている。

## Isao Sawa

**澤功** 東京・谷中で「澤の屋旅館」を経営。温かいもてなしの心で、これまでに12万人の外国人旅行者を受け入れてきた。ほほ笑ましいエピソードと外国人とのつき合い方のコツを満載した体験記を、英語で今年7月に出版。



## Genshitsu Sen

**千玄室** 茶道裏千家の前家元(第15代)。第2次大戦終結直後から外国での茶道の普及をめざし、60カ国以上を歴訪。各国首脳に茶を振る舞うほか、各地で講演やデモンストレーションを精力的に行ってきた。昨年には国連親善大使に任命された。



# REST OF THE BEST

## Kohei Yamada

**山田耕平** 青年海外協力隊の元隊員。アフリカのマラウイに赴任中の昨年、エイズ予防を訴える歌「ディマクコンダ(愛してる)」を友人である現地の歌手と制作し、現地語で歌ったところ大ヒット。ヒットチャートで1位を獲得し、現地のレコード大賞にもノミネートされた。

## Yuko Yamaguchi

**山口裕子** 「ハローキティ」の現デザイナー。80年代からデザインを担当し、世界中から愛されるキャラクターに育てている。

## Tadashi Yanai

**柳井正** ユニクロを傘下にもつファーストリテイリング会長兼社長。ベーシックな衣類を市場最低価格で提供する戦略で成功。01年のロンドンを皮切りに、アメリカや中国、韓国にも店舗を展開する。今年11月にはニューヨークのソーホーに世界最大の旗艦店をオープンする予定。10月には国内でユニクロよりも低価格の新ブランド「g.u.(ジーユー)」の展開も開始。



## Tomohiro Yasui

**安居智博** 造形作家、「カミロボ」制作者。紙と針金を使い、身長15~20センチのロボットファイター約200体と独自の世界観をつくり上げた。今年4月、ロンドンのICA(インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート)で展覧会を開催。

## Yoshida Brothers

**吉田兄弟** 津軽三味線奏者。兄の良一郎と弟の健一のユニット。99年にメジャーデビュー。ロックミュージシャンのようなステージと民謡を斬新にアレンジした音は海外でも好評で、公演はソールドアウトが相次いでいる。昨年にはアメリカで3枚のアルバムを発売。

## Sahori Yoshida

**吉田沙保里** アマチュアレスリング選手。3歳でレスリングを始め、世界ジュニア選手権で2連覇を達成(00年、01年)。アテネ五輪の女子55キロ級では金メダルを獲得した。10月1日まで中国で開かれていた世界選手権で優勝し、国際大会での連勝を101に伸ばした。



## Yukiko Ueno

**上野由岐子** ソフトボール選手。日本代表のエースとして、04年アテネ五輪で銅メダルを獲得。先月閉幕した世界選手権では、準優勝の原動力となった。120キロ近い速球は各国から恐れられている。

## Wakamaru

**wakamaru** 三菱重工が開発したコミュニケーション・ロボット。現行機は昨年の愛知万博に接客ロボットとして出展された。オーナーの生活リズムを記憶し、それに合わせて会話をすることもできる。昨年から家庭向けに試験販売を開始。



## Tokyo Shock Boys

電撃ネットワーク パフォーマンス集団。  
過激で笑える芸の数々が海外で大人気。

## Sanae Tomita

**富田早苗** チアリーダー。NBA(全米プロバスケットボール協会)オークランド・ゴールデンステート・ウォリアーズのダンスチームで、02年から活躍している。

## Seiei Toyama

**遠山正瑛** 農学専門家。91年に日本沙漠緑化実践協会を設立し、中国・内モンゴル自治区クブチ砂漠で300万本以上の植林を行った。03年、アジアのノーベル賞といわれる「ラモン・マグサイサイ賞」を受賞。翌年、97歳で死去。

## Naoko Tsuyama

**津直子** NPO法人「日本国際ボランティアセンター」南アフリカ事務所代表。94年より南アフリカに赴任し、環境保全型農業の普及、HIV感染者や障害児への支援に取り組んでいる。

## Shu Uemura

**植村秀** シュウ ウエムラ化粧品名誉会長。50年代にアメリカへ渡り、メイクアップアーティストとしてハリウッドで活躍。その後、シュウ ウエムラを設立し、アジアや欧米の世界17カ国に展開するブランドへと育て上げた。